

吹田の大木図鑑

吹田の大木で多い樹種

サクラ バラ科 落葉高木

桜 ソメイヨシノ ヤマザクラ カスミザクラ

ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの雑種と考えられており、江戸時代末期に江戸染井村（東京都豊島区）の植木屋から「吉野桜」として売り出されました。枝が横に広がり傘状の樹形になります。幹は皮目が横に並び成木では凹凸が目立ち縦に裂け目が入ります。葉が展開する前に開花し前年枝の葉腋に淡紅色の花が付きま。実は直径1cmほどで5~6月に黒紫色に熟しますが、めったに結実しません。高さ10~15m。



五月が丘東・民家 ソメイヨシノ (302) 307 cm 10.5m
吹田No.1のサクラの大木

クスノキ クスノキ科 常緑高木

楠・樟



樹形は雄大で高さ20m以上、直径2mに達します。国の特別天然記念物の中には幹周り24mを超えるもの（鹿児島県蒲生の大クス）があり、日本最大の巨木となっています。

クスノキは1978年に「吹田市民の木」に選定されており、今回の大木調査でも631本と一番多かった木です。

かつては枝葉を蒸留して樟脳を採り、防虫剤や薬品（カンフル剤）などを作っていました。葉はアオスジアゲハの幼虫が食べ、実はヒヨドリ、ツグミ、イカル、カラスなど多くの鳥に好まれます。

葉は交互につく互生。革質で表面に光沢があり、濃緑色。三行脈（主脈とその基部からのびる2本の支脈）が目立つ。5月ごろ、新葉と入れ替わりに古い葉を落とす。



もむと樟脳の香りがする。

葉脈の分岐点にダニ室がある。ダニが生息し、木の病変である虫こぶを作る別のダニの増殖を防いでいるという研究がある。



実の拡大図
11~12月、直径0.8cmほどの球形で黒紫色に熟す。



ソメイヨシノ

葉は互生。先端は鋭く尖る。葉は花のあとに開く。花柄・葉柄に毛がある。

ヤマザクラ

若葉は赤褐色で花と同時に開く。ソメイヨシノより早く咲く。葉柄が赤い。花柄・葉柄に毛がない。

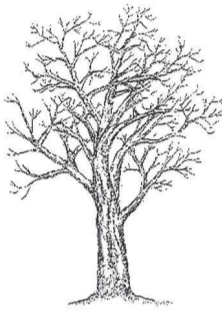
カスミザクラ

ソメイヨシノより遅く咲く。葉の両面に毛があり、葉裏は淡緑色で光沢がある。花柄・葉柄に毛がある。

アベマキ ブナ科 落葉高木

栲・阿部楨

樹皮は灰褐色で厚く、縦に裂け、コルク層がよく発達しています。アベマキのアベはアバタのこと。樹皮のようすを表しています。高さ20m~30m。



葉は互生で長さ10~15cm、幅3~4cm。長楕円形で先は尖っている。縁は波をうち、尖った鋸歯がある。革質で表は深緑色、裏は毛が密生しているため灰白色に見える。（よく似たクヌギの葉の裏には毛がなく淡い緑色。）

実は2年かかって熟成する。直径2~3cmの球形。殻斗は椀状で鱗片が反り返っている。

コナラ ブナ科 落葉高木

小楡

ナラ類の中で葉が最も小さいのでこの名がつけました。薪炭用、シイタケの原木などとして使われ雑木林の代表的な木です。樹皮はタンニンが多く含むので染料にも使われていました。樹液にカブトムシやクワガタムシなどたくさんいる虫が集まります。高さ20m。



葉は互生で長さ5~15cm、幅4~6cm。上半分が幅広く、先端は尖る。縁には鋭い鋸歯があり、洋紙質で裏は灰白色。

実は10~11月、1年で実る。長楕円形で長さ1.5cm。殻斗は椀状でやや浅くうろこ状。

ケヤキ ニレ科 落葉高木

欒・槻（ツキ）

箒を逆さにしたような樹形が雄大な印象で、日本の落葉樹としては最も大きくなります。「けやけき木」が名前の由来。美しい、ひととき優れている木という意味で、木目が美しく材が良質。吹田では街路樹、公園、学校に多く植えられています。春の芽吹きが枝ごとに不規則。高さ25m。



葉は互生。長さ3~7cm、幅1~2.5cm。縁には鋭い鋸歯がある。表面はざらついている。

実の拡大図。
実は10月、黒褐色0.5cm。脈が隆起したゆがんだ扁球形。

メタセコイア スギ科 落葉針葉高木

曙杉（アケボノスギ） 水杉

三木茂博士によって化石が発見され絶滅したと思われていたところ、1945年に中国四川省の奥地で生木が発見され「生きている化石」として有名になりました。高さ20m~30m、直径1.5mになり、三角錐の美しい姿の大木になるので、戦後、日本にも輸入され、各地の公園や学校に多数植えられました。



ポプラ ヤナギ科 落葉高木

カリナポプラ イタリアポプラ

箒を逆さに立てたようなセイヨウハコヤナギ（通称ホウキポプラ・イタリアポプラ）と枝を広げるカリナポプラがあり、吹田に多いのはカリナポプラです。高さ30mになります。5月、綿毛に包まれた種子が飛びます。

千里南公園のカリナポプラ (941) 309 cm 28m



葉は互生。やわらかく光沢がある。扁平な長い柄がありわずかな風にもゆれる。



葉は対につく対生。扁平な線形で柔らかく先はとがっている。秋に赤褐色に紅葉して細い枝とともに落ちる。



実は10~11月、直径1.5cmほどのやや長い球形。くすんだ緑色から褐色に熟す。

エノキ ニレ科 落葉高木

榎



関西大学 エノキ (705) 394 cm 22m
姿のよい木だったが2018年9月の台風で枝折れした。

名前の由来は「枝（エ）の多い木」という説もあるほど、よく枝分かれして樹冠は横に広がっています。また、夏に木陰を作る木ということで榎の字が作られたとか。江戸時代には一里塚の道標として植えられました。江の木町や江坂などの地名の由来となっています。高さ15m。

葉は互生で長さ5~15cm。上半分のみ鋸歯がある。三行脈が目立ち、ムクノキほどではないが表面がざらつく。ゴマダラチョウ、オオムラサキの幼虫が食べる。



実は9~10月、直径0.6cmほどの赤褐色の球形で食べられる。ヒヨドリ、カワラヒワ、イカル、ムクドリなど多くの鳥が集まる。



葉は長さ4cmほどの針状で銀緑色。長枝にはらせん状につき、短枝には束になってつく。



雌花の松ぼっくりは6~13cm。翌年の秋から晩秋に熟す。種子には翼がある。成熟すると崩壊し種鱗と種子が落ちる。松ぼっくりの先端はバラの形に残りシーダーローズと呼ばれる。



大阪大学 ヒマラヤスギ (1565) 250 cm 19.8m